

第3回 大淀川水系 水防災意識社会再構築協議会 開催

大淀川流域等の関係機関が連携・協力し、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的として協議会を設立し、ハード・ソフト対策を一体的、計画的に推進しています。

第3回となる今回の協議会では、減災に係わる取組方針の実施状況をフォローアップし、関係機関で進められている主な取組内容について、共有を図りました。

開催概要

- 日時：平成30年5月30日（水）
- 会場：宮崎河川国道事務所 別館3階会議室

協議会 委員名簿

- 規約別表のとおり。

議事内容

- 規約改正（組織名称変更）について
- 「減災に係る取組方針」フォローアップ【直轄管理区間】【県管理区間】について

委員の方の主な発言

- **【水害（災害）に強い人づくりの推進】**について
 - 企業主催の防災イベントに参加する事や自治公民館研修で防災講話を行う事で自助・共助の大切さを啓発している事例が紹介された。
 - 新燃岳噴火に伴い、土砂災害ハザードマップを見ながら実際の避難状況の検討を行っている取組などが紹介された。
 - アドバイザーからは「水防災は地震災害と少し違ってくるため、NPO法人が主催する安全講習会などにも積極的に参加してほしい」といった意見が出た。
- **【情報伝達のための環境づくりの推進】**について
 - 防災メールの有効性の啓発を進めている事や、企業と協定を結び防災情報の多重化を図っている取組が紹介された。
 - アドバイザーからは情報の伝達では画像情報が有力となるため、地図などを利用し分かりやすくする工夫が必要という意見が出た。
- **【水害（災害）に強いまちづくりの推進】**
 - 【水害（災害）に強い防災拠点の推進】**について
 - 大規模氾濫における排水計画、指定避難路の見直し、耐震工事にあわせて電源等設備を庁舎上部へ移設した取組、中央コミュニティセンター竣工、防災行政無線導入を検討しているなど各種取組が紹介された。
 - アドバイザーからは、「今後は人口減少、過疎化が進んでいくなか、土地利用規制や開発抑制など、どのように進めていくかが重要である。」といった意見が出た。

